

旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

動力を使わず船を持ち上げる閘門の仕組みや、使われている例を調べてみよう

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 身近に産業が発達した場所の適した条件について調べてみよう
- まちづくりの困った点について調べてみよう

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。

9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE
Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation

〈参考:外務省訳〉「産業と技術革新の基盤をつくろう」 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

都市の理想を、富山から。



昭和のまちづくりと土木技術を感じる 富岩(ふがん)水上ライン

Sustainable Development Goals



- ◎ 豊かな水辺の賑わいのあるまち
- ◎ 産業基盤のあるまち



川の流れをかえた
土木工事の影響で港が
土砂に埋まり川の舟運
が難しくなった

富岩水上ラインでは、富山と岩瀬を結ぶ富岩運河を、環境に優しい電気を動力に使った船でクルーズし、環境やまちづくりについて学ぶことができます。

富岩運河は、隣を流れる神通川に並行するように昭和の初めに掘削された運河で、運河を掘ってでた土砂は、流れを人工的に付け替えた神通川の廃川地の埋め立てに使われ、富岩運河の建設により、東岩瀬港と富山駅北が水路でつながり、舟による資材の運搬が非常に便利となり、運河沿岸は一大工業地帯を形成することになりいくつもの課題を解決する富山県で初めての都市計画事業となりました。運河の途中にある上流と下流の水位差を調整する施設「中島閘門(こうもん)」では昭和初期の高度な土木技術を体験できます。



旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- 運河の役割について調べてみよう
- インフラとは何か、どういうものがあるか調べてみよう

年 組 名前

クルーズ見学の見どころと、船の紹介

クルーズの見どころは「中島閘門(なかじまこうもん)」です！中島閘門は全国的にも珍しい、船に乗ったまま日本最大級の高低差を体験できる「水のエレベーター」です。また、運河を走る4隻の水の上船は、電気を使った自然に優しい船です。電気モーターで動くので音は静かです。

【kansui- かんすい-】 定員55名以内



大変好評な「fugan」のデザインを受け継いでいます。船内はバリアフリーに対応し、エアコンやトイレを装備することにより、快適性を高めています。

【fugan- ふがん-】 定員55名以内



ソーラーパネルを装備したモダンで先進的なデザインは、運河や園内の景観にも調和します。船体のアルミと美しい曲げガラスが特徴です。

【sora- そら-】 定員55名以内



屋根にソーラーパネルを装備して、太陽の力も借りて走ります。船内には、県内の伝統工芸を活かして作られた、シップベルやゼンマイ式音声ガイドもあります。

【もみじ】 定員11名以内



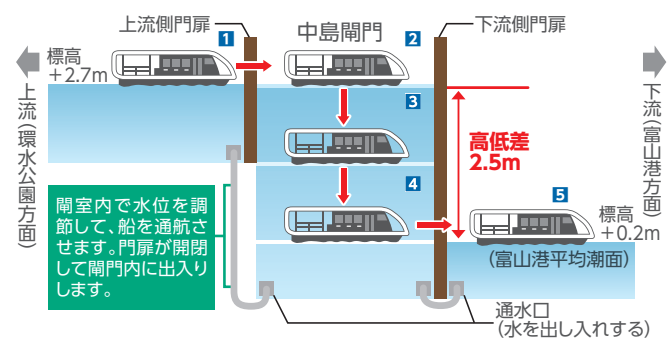
アメリカ製の電気ボートで、日本では、富山と東京のみ運航しています。小型ですが、船内は背もたれやクッション性のあるシートを使っているので、快適に運河クルーズを楽しめます。

「水のエレベーター」中島閘門について



富岩運河の河口から約3km付近に、上流と下流の水位差2.5mを調整するための施設、中島閘門(こうもん)が設置されています。この閘門は、富岩運河の建設にあわせて昭和9年(1934)に設置され、上流の工場へ原料を運ぶ船が運河を上り下りするのを助けます。(※水のエレベーターがないと流れが急になり、上流へ船が向かいくいいため)平成10年には昭和初期の土木技術の高さを示すものとして国指定重要文化財に選定されています。この閘門を境に、上流は淡水域、下流は汽水域と生息する魚も種類が違います。

なかじまこうもん
中島閘門のしくみ (富岩運河の上流から下流へ通航する場合)



●汽水域

中島閘門から下流は海水と淡水が混ざった汽水域になっており、フロダイなど海辺の生物が生息しています。過去にはイルカが迷い込んだこともあったそう。



●水鳥

環水公園のバードサンクチュアリから運河沿いには水鳥にも出会えます。コガモやキンクロハジロなど季節ごとの水鳥が水面をにぎやかにしています。もっとも遭遇率が高いのはアオサギかもしれません。



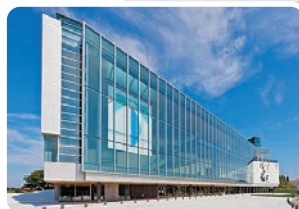
●モニュメント「大地の目」

終戦間際、米軍が模擬原爆を全国に約50発落とし、富山市には計4発の模擬原爆が投下され約60人がなくなり80人以上が負傷しました。運河沿いにも模擬原爆が落とされたことから、このモニュメントが模擬原爆投下と関連付けられて語られることがあります。



●富山県美術館

アートとデザインをつなぐ美術館。オノマトペの屋上の遊具やアトリエでのワークショップも楽しめます。



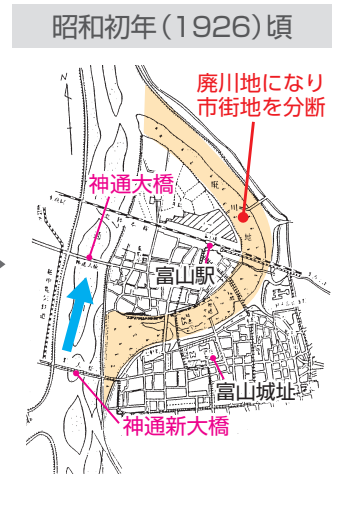
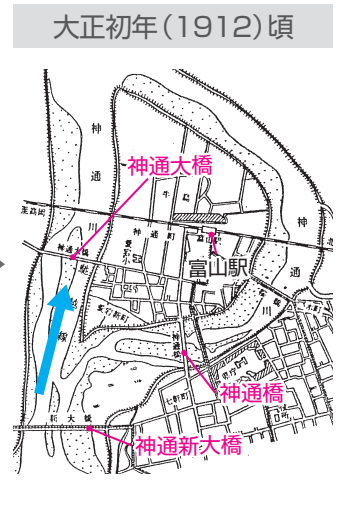
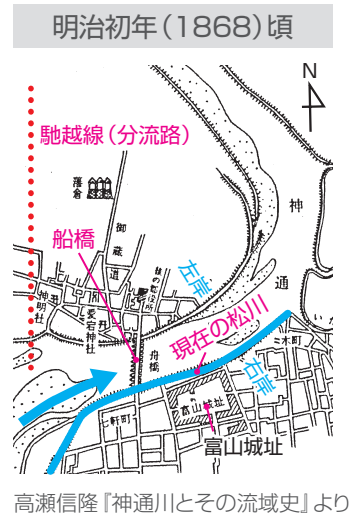
●富岩運河環水公園

富山の自然とあつた運河の船溜まりとして利用された歴史を生かして整備された都心のオアシスです。



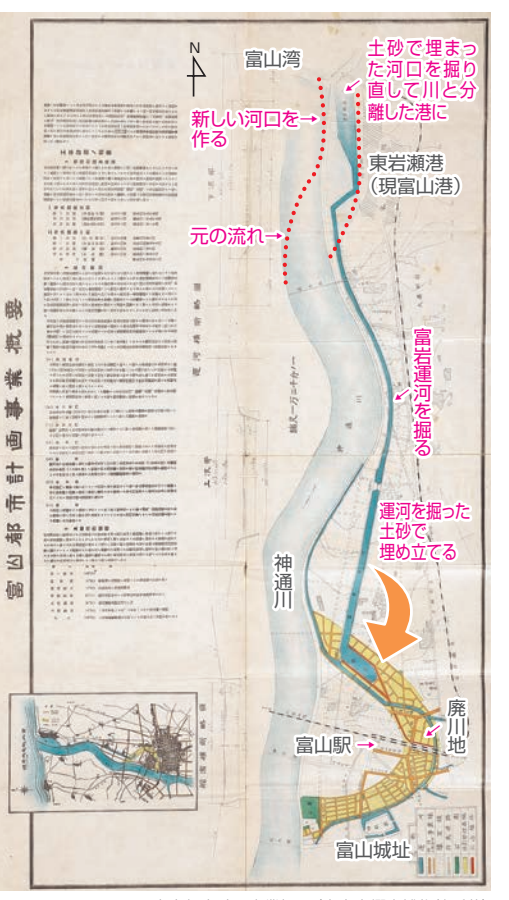
●スターバックスコーヒー (富岩運河環水公園内)

2008年にストアデザインアワード最優秀賞を受賞した美しい店舗は常に賑わいます。



運河建設の背景について

明治期までの神通川は、富山市中心部で大きく蛇行して流れていたため氾濫することが多く、街は頻りに浸水被害に遭っていました。そこで明治34年(1901)、富山県はこの蛇行部分にまっすぐな分水路である馳越線(はせこしせん)を建設しました。これによって水害は減少し、分水路が本流化したことから、大正14年(1925)には馳越線と蛇行した流路が堤防で仕切れ、現在の神通川の流れになったのです。しかし、旧流路が広大な廃川地となって富山駅と市街地の間に横たわり、近代都市としての発展を妨げることとなりました。また、神通川の河口に位置した東岩瀬港との舟の行き来も困難となったのです。そこで、富山駅北と港の間に「富岩運河」を開削し、新たな物流ルートを確認するとともに、沿線に工場を誘致、また掘削した土砂で神通川の廃川地を埋め立てるといった計画が立てられました。富山県初の都市計画です。さらに、土砂で埋まった港を神通川と分離し、さらに廃川地埋立てで残った土砂を使って港の岸壁や埠頭の整備が行われました。1つの事業で3つの課題を解決する画期的な計画でした。



富山都市計画事業概要(富山市郷土博物館所蔵)

気になったことを書いてみよう。